

持続可能な伊野をつくる

10年後の伊野将来ビジョン

み ら

やって未来こい！ ENO暮らし2030

大好きなこの場所で
大好きな人と暮らしたい
海と山と宍道湖の
この伊野で暮らしたい
さあ！一緒に始めよう！
さあ！一緒にふみだそう！

出雲市伊野地区自治協会
伊野の未来を創る戦略会議
2020年3月

目次

—CONTENTS—

はじめに	1
I 伊野地区の現状と課題	2
II 将来のまちの姿は（めざす伊野の将来像）	4
III 各分野の戦略プラン	
教育部会	6
福祉・医療・暮らし部会	10
安全・安心部会	16
農水部会	22
交流部会	26
情報発信部会	28
学生部会	32
編集後記	34

はじめに

－なんで伊野の将来ビジョンをつくったのか－

人口減少・少子高齢化の進行により、伊野地区ではさまざまな問題が表面化しています。今年度の「いのはや駅伝」に参加したのは16町内のうち11町内でした。スポーツ行事に選手を出せない町内が増えてきました。

地区行事だけではなく、人びとの暮らしにも深刻な困難が生まれています。これから世帯数が減り少子高齢化が進むと、地域コミュニティが麻痺する事態に陥ることが予想されます。

これまで、「伊野いち」や「伊野バージョン」など様々な取組を積み重ねて一定の成果を収めてきましたが、もはや対処療法では根本的な解決に至らないことは明らかです。伊野地区の全体に深刻な痛みが出始めている状況を考えると、10年～20年後を想像して総合的な取組を始める必要があります。

そこで、長期的な視点に立ってまちづくりを推進するため、今年度、「伊野の未来を創る戦略会議」を立ち上げました。70人余の人たちが7つの部会に分かれて検討を重ねてできあがったのがこのビジョンです。

これは10年後～20年後、持続可能な伊野をつくるための提案です。ビジョンを実現できるかどうかは私たち一人ひとりの肩にかかっています。ビジョンを参考にみんなの知恵を集めて具体的な取組を開始しましょう。

伊野地区自治協会

会長 多久和 祥司

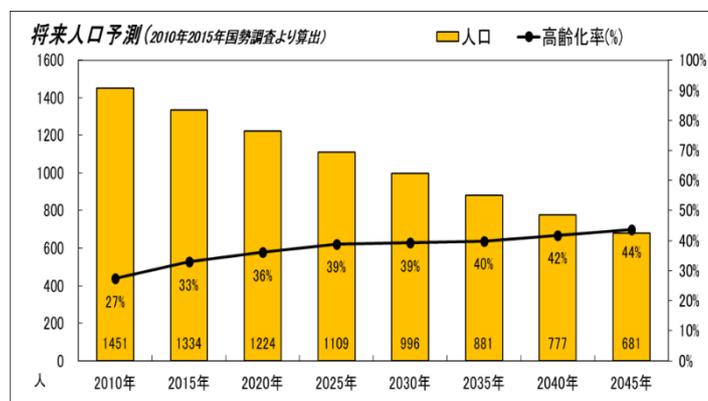
I 伊野地区の現状と課題

1 いまの伊野は 一地域の現状と特徴

伊野地区は出雲市の東端にあり、松江市と境を接し、北は日本海の地合町から南の宍道湖岸まで南北に細長い地域で、豊かな自然に囲まれ、その自然に育まれた人情は豊かで細やかです。

<産業>

古くから農業生産の中心は、米、大豆などの穀物や養蚕、畜産などでしたが、近年では転作推進、米価の下落など情勢の変化に伴い、シイタケの菌床栽培やブロッコリーなど野菜類の栽培に転換が図られてきています。西地合の沿岸漁業は、イカ、タイ、アゴ、サザエなど豊



かな海の幸を生産してきましたが、後継者がほとんどいないという深刻な事態を迎えています。宍道湖ではシジミを中心とした漁業が行われていますが、自然環境の変化が原因なのか、漁獲量が安定しない弱点をかかえています。

<生活インフラ>

交通インフラは、市道伊野本線などが計画的に整備されてきており、交通弱者の移動手段である生活バスも運行していますが、十分とは言えません。小学校近くに商店が1軒あり、高齢者にとって買い物やコミュニケーションの場として貴重な役割を果たしていますが、買い物の不便さ解消は大きな課題です。

伊野地区は昭和40年頃から無医地区であり、現在は多久町にある診療所が最も近い診療所となっています。平田の病院や診療所に通う人も多いですが、車を運転しない高齢者にとっては通院のための交通手段確保がもっとも深刻な課題となっています。

地区内には障がい者施設と介護施設があります。介護施設は地区内の利用者が多く、当地区の介護分野に大きな役割を果たしています。

<教育>

近隣の小学校と統合せず単独存続の道を選んだ伊野小学校では、ふるさと教育の充実や地域・学校連携により「小さな学校の大きな魅力」をめざして様々な活動が展開され、注目を集めています。県下に3館しかない伊野児童館は、子育て支援や放課後の児童の生活充実に大きな役割を果たしています。

しかし、児童数が減れば、伊野小学校や伊野児童館の存続も危うくなります。

<人口減少と少子高齢化>

人口減少・少子高齢化に起因する痛みが地域コミュニティの随所に現れ始めています。自治協会をはじめ地域の運営組織の役員選出が困難になり、体育祭など地域

行事もこれまでの活動を継続することが危ぶまれる状況にあります。自治協会加入世帯数も減り続け、財政も危機に瀕しています。

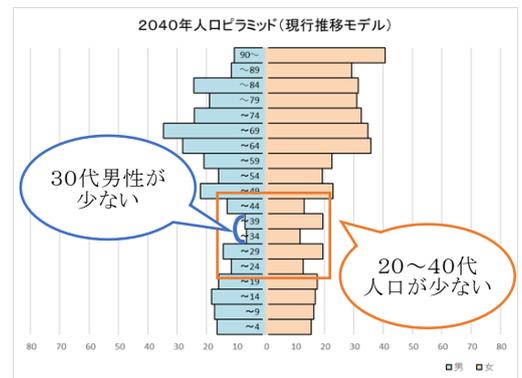
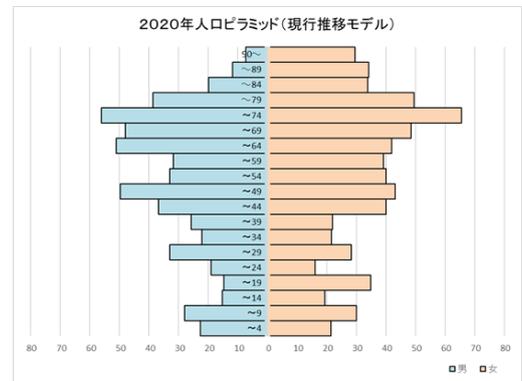
縮小する地域コミュニティの機能維持のために、長期的・総合的な取組を早急に開始しなければなりません。

<まちづくり>

地域の活動拠点である伊野コミュニティセンターを核に、この数年間、各地域運営組織や自主的グループが活発な活動を展開し、伊野のまちづくりは全国的に注目されるようになってきました。しかし、10年後、20年後の伊野を想像するとき、立ち足かかる壁はあまりにも高い。そこで、2019年度に「伊野の未来を創る戦略会議」を立ち上げ、持続可能な伊野を創るための「伊野の将来ビジョン」作成に取り組んできました。

2 地域の課題は

- 1) 少子化が進み、数年後から小学校の児童数が大きく減少に転じる。
- 2) 人口流出等により、若者や担い手が不足するという問題が深刻化している。
- 3) 高齢の小規模兼業農家が多く、近年は有害鳥獣の被害も増えていることから、今後、離農者が激増すると思われる。
- 4) 農地の維持や集落維持活動で、草刈りが大変になってきており、農作業環境や住環境が悪化している。
- 5) 独居世帯、高齢者のみの世帯が増加しており、これらの世帯への支援が急がれる。
- 6) 災害時の要支援者への連絡体制、避難誘導など防災力強化に早急な対応が必要である。
- 7) 買い物ができる店が少ないこと、運転免許を持たない人や子どもなどの通院・通学手段が少ないことなど、暮らしの不便さが顕著である。
- 8) 人口減・世帯減とともに空き家が増加し、維持管理ができていない。
- 9) 自治協会や町内会、各種団体の運営が難しくなり、地域コミュニティの機能維持がますます困難になると思われる。
- 10) 伊野本線、美野本線、斐川一畑大社線（地合工区）など生活の基盤となる道路の整備が急がれる。



Ⅱ 将来のまちの姿は（めざす伊野の将来像）

1 伊野地区の将来像

みんなで支え合い、未来へつなぐ活力あるまちづくり

**住み慣れた場所で、だれもが安心して楽しく笑顔で暮らせるまち
地域の皆さんの持ち味とつながりで、人とまちが輝き活力あるまち
地域外の人びとと一緒に、新たなコミュニティを創造するまち**

こうしたまちの姿を思い描いています。子どもや若者が増えれば、活気が生まれ、教育の場（小学校）が維持でき、地域の自治機能や生活機能が保たれ、まちの活力を維持できます。こうしたまちをみんなでつくりあげていくことを大きな目標として、地域をあげて取り組んでいくことが求められています。

そのために、子育てしやすく幸せと活力いっぱいの伊野をつくり、関係人口や交流人口を増やしていくことが大事です。多くの人びとが行き交う伊野になれば伊野の未来もひらけるでしょう。

一方、私たち伊野の住民が「伊野に生まれてよかった」「伊野に住んでよかった」と感じ、誇りを持って幸せに暮らしていけるような仕組みをつくっていくことが、将来の伊野を創造する上で最も大切な視点であると考えています。

2 まちづくりの目標（キャッチ・フレーズ）

や^みつ^らって未来こい！ ENO 暮らし2030

私たち伊野地区民がまちづくりへの思いを共有し、「や^みつ^らって未来こい！」と難題に挑戦する意気ごみを表したキャッチ・フレーズです。10年後、伊野地区がめざす将来像をイメージし、象徴的に示したものです。

E

「笑顔や縁」でつながる楽しいまち、みんなの情熱（Emotion）で笑顔満開の伊野にしたいという思いが込められています。

N

「のんびり」とぜいたくな田舎暮らしを満喫しよう、隣近所（Neighbor）の支え合いとふるさと会員の皆さまなど（関係人口）のご支援で持続可能な新しい（New）伊野をつくってほしいという願いをこめています。

0

「おたがいさま」の仕組みをつくって困りごとを解決できるまちにしたい、伊野独自の（Original）活動や商品をつくって未来につながる活力あるまちをつくりたい、という方向性を示しています。

2030

人口減少を止めることはとてもむずかしい課題です。10年後の2030年、ふるさと会員の皆さまなど（関係人口）を含めて2030人の新しい伊野コミュニティをつくり、「やっぱり伊野はいいの〜」（ENO）と思えるふるさとをつくっていきましょう。

地域産業の活性化、福祉や教育の充実、道路や移動手段などのインフラ整備、防災力強化・・・、課題は山積みです。でも、10年後、20年後、幸せいっぱいの伊野暮らしが実現するように伊野をつくりかえましょう。（Renovation）

3 ENO暮らし2030を実現するために

EN01（教育）

伊野で人生を遊ぼう —子育てするなら伊野で—

EN02（福祉・医療・暮らし）

子どもたちからお年寄りまで住みやすく笑顔で暮らせるまち

EN03（安全・安心）

住民の命と安全を守る 安全・安心は最優先課題

EN04（農水産業）

楽しむ農業・漁業で笑顔あふれる地域づくり

EN05（交流）

みんな笑顔でつながる 次世代につなげる交流

EN06（情報発信）

SNS活用でヒト・モノ・コトがつながるコミュニティ

EN07（青年・学生）

子ども・若者が参加するまちづくり —「いの青年団」結成—

EN08（コミュニティの運営）

縮小するコミュニティに見合った運営組織

EN09（移住・定住促進）

この人たちとここで暮らしたいと思えるコミュニティづくり

まちづくりの課題や取組目標の詳細は、後述の部会報告をご覧ください。

Ⅲ 各分野の戦略プラン（ビジョン）

教育

子育てするなら伊野で —毎年、10人の子どもが生まれるまち—

1 現状と課題・取組目標

(1) 子ども人口を増やす

2019年の伊野小児童数は48人です。今後3～4年間は50～60人台に増えますが、その後、大きく減少に転じると思われます。毎年、10人の子どもが生まれれば安定した学校経営が可能になり、地域コミュニティも安定すると思われます。「子育てするなら伊野で」と20代～30代の女性・夫婦がやって来るまちになれば、持続可能な伊野に道が開けるでしょう。

(2) 子育て環境を充実させる

当地区に保育園や幼稚園がないので親の通勤経路や職場の近くにある保育園等に子どもを預けています。伊野に幼稚園ができれば移住・定住促進につながるでしょう。小学生の学童保育は伊野児童館といのっ子教室で午後5時まで行っていますが、延長を求める声がたくさん挙がっています。仕事と子育てを両立させるため、長期休業も含めた学童保育の充実は急がれる課題です。

乳幼児とその保護者の交流を求める声も挙がっています。乳幼児の保護者支援の具体策を考える必要があります。

(3) 小さな学校の大きな魅力をつくる

小規模校の困難は地域支援で克服します。すでに、多数の地域ボランティアが校庭の草取りやプール清掃などに参加しています。

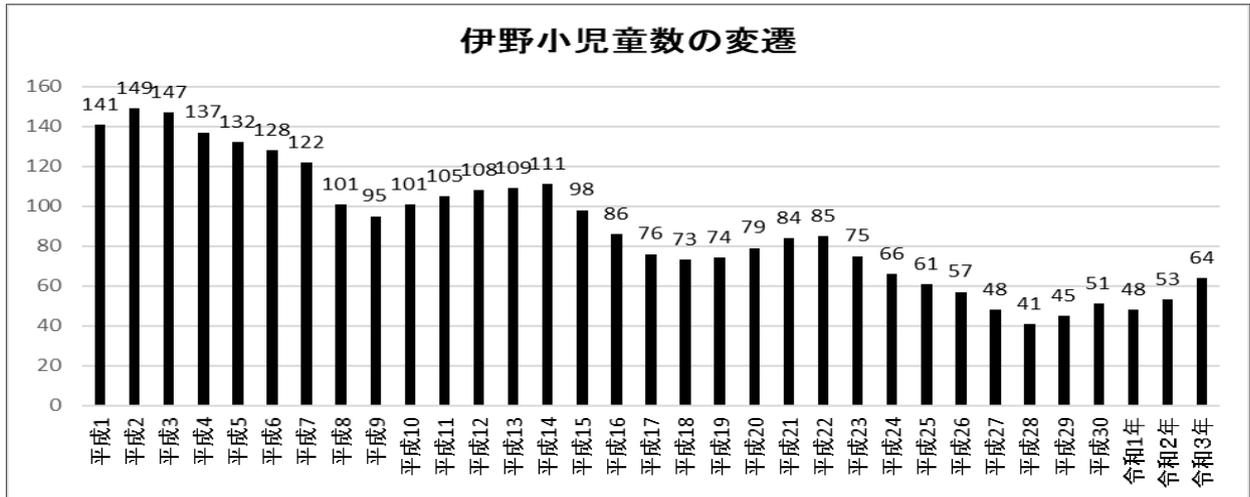
小規模校だからできる教育実践で子どもたちを成長させる活動が展開されています。5・6年生の伊野いち学習と「町の幸福論」学習は、子どもたちの生きる力を育むとともに、地域住民に大きな希望を与えています。地域と学校の協働によって、子どもたちの未来を支える伊野の教育プランをつくっていきたいと思います。

(4) 遊んで育つ・つながる

自然豊かな伊野を走り回る子どもたちの姿が10年後に消えないようにしたいものです。遊びを通して情緒や身体の発達を促す取組は、すでに伊野ベション等で始まっていますが、日常的に外遊びができる環境整備や親が遊びを学ぶ取組は伊野の子育てをさらに魅力的にするでしょう。遊びを通して子ども同士、親同士がつながり、伊野暮らしは楽しいと感じるまちにしたいものです。

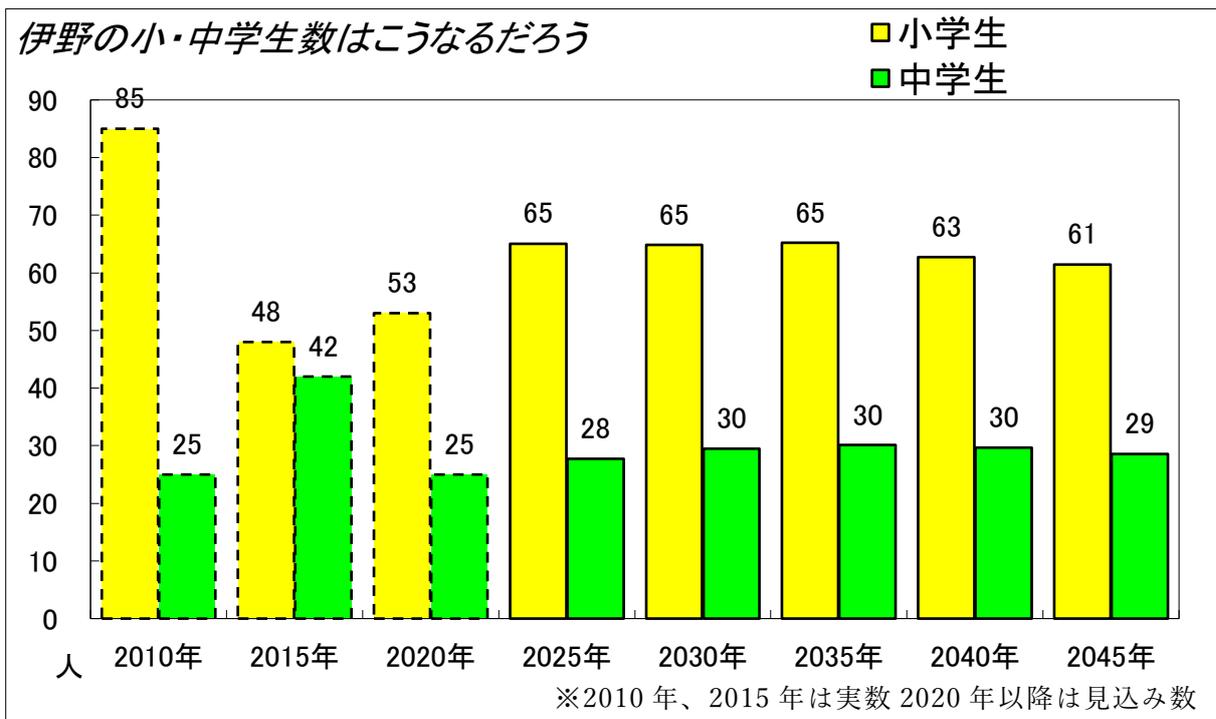
(5) ライフステージに応じた学びの機会をつくる

学びに終わりはありません。ライフステージに応じてさまざまな学びの要求があります。学びの機会をたくさんつくすることで、充実した伊野暮らしを実現させたいものです。住民一人ひとりの技を互いに学び合うようにすれば、学びの要求を満たし親密な人間関係をつくりだすことになるでしょう。



もし、毎年次のような家族が伊野に移住すれば・・・

- 20代前半夫婦1組 ●30代前半夫婦で4歳以下の子連れ1組
- 60代前半夫婦1組



島根県中山間地域研究センター作成

2 教育・将来ビジョン

伊野で人生を遊ぼう

1 遊んで育つ

—遊びいっぱい・冒険いっぱいの子ども時代—

(1) 遊び場は伊野の自然

○「伊野の遊び場マップ」「生き物マップ」「生活カレンダー」を作り親子で伊野めぐりを楽しめるようにします。

○伊野の自然を舞台に島根大学教育学部の学生と地域住民がつくる遊び（伊野バージョン）を充実させ、地域内外の子どもたちの交流を深めます。



伊野バージョン 日本海でいかだ遊び

(2) 子どもと大人と一緒に遊ぼう

○親が子どもと一緒に遊ぶ技を身につけよう。ロケットストーブや燻製器作り、昔の遊びなどを学ぶ機会をつくります。

○近所や町内で子どもと親と一緒に集い遊ぶ機会をつくり、近所の教育力を高めるようにします。

(3) 伊野留学

○他地域の子どもたち・親が伊野暮らしを体験できるようなしくみをつくり、伊野の子どもたちとの交流を図ります。

2 子育てはみんなで楽しく

(1) 児童館と「いのっ子教室」の充実で仕事と子育ての両立

○放課後や長期休業中の児童預かりを午後6～7時まで延長して、仕事と子育てが両立できるようにします。

○児童館を子育ての拠点として、さまざまな活動を展開します。



わくわくひろば
動物のジグソーパズルに挑戦

(2) 子育てネットの充実

○教育情報が簡単に手に入るSNSを整備します。

○乳幼児保護者の要求や困りごとに応える活動をつくります。

(3) 伊野幼稚園

○伊野の地形をいかして森（海）の幼稚園ができれば、移住人口増加にもつながるでしょう。

3 地域・学校連携で小さな学校の大きな魅力をつくらう

- (1) 小規模校の困難は地域の支援で克服
 - 校庭の草取りやプール清掃など学校の困りごとは地域ボランティアがお手伝いします。
 - 自治協会やふるさと会員の寄付で財政支援を行います。

- (2) 小さな学校の大きな魅力

小さな学校だからできる大胆できめ細かな教育実践を地域が支えます。



町の幸福論を考える伊野小児童

4 ライフステージに応じた学びで人生イキイキ

- (1) 年齢や性別に応じた学び

- 「味噌をつくりたい」「スマホの使い方を教えて」「ゴルフをやってみたい」など、多様な学び要求に応える機会をつかって人生を楽しくします。

- (2) 先生は地域住民

- 住民一人ひとりの持ち味や技をいかして学び合うようにします。



ハム作り

5 子ども・青年のまちづくり参加

- (1) 子どもの頃から地域社会に関わる

- 地域行事の中に子どもたちの出番や役割を準備し、地域の一員としての自覚を促します。

- (2) 学生・青年のまちづくり参画

- 学生・青年のまちづくり参画はとても重要です。他地域の学生・青年たちも誘いこんで、協働の輪を広げれば大きな取組が実現するでしょう。



伊野いちで活躍する子どもたち

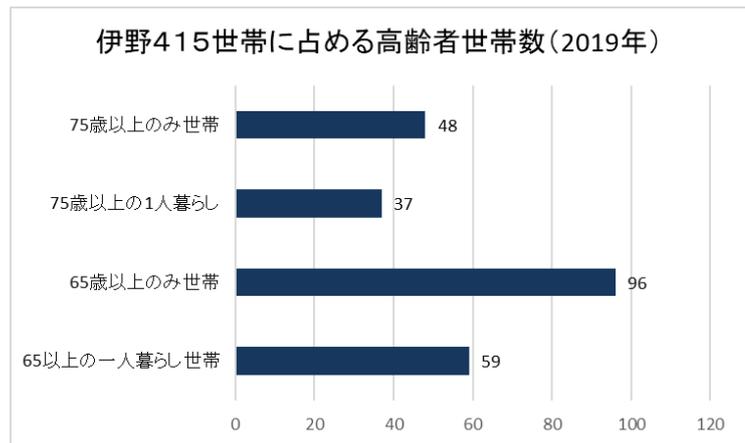


伊野名物 文化祭のいのはやおちらと駅伝

現状と課題、取組の方向

10年後の伊野地区、なりゆきまかせにすれば…

- ① 高齢化、少子化が一層進み、生産年齢人口である「担い手」があらゆる分野で不足する。
- ② 独居世帯、高齢者のみの世帯が増加し、在宅介護が困難な世帯が多くなる。
- ③ 認知症等介護が必要な高齢者が急増する。
- ④ 地区・町内行事の参加者が激減、町内での共同作業(草刈り等)の人手が不足する。
- ⑤ 高齢化、運転免許返納等により交通手段を持たない買い物難民が増加する。
- ⑥ 高齢者の食・住環境が悪化する(食事摂取、家の修繕等)。



こうした事態が進めば、伊野での暮らしの満足度が低下し、便利な地域へ転出する住民も増えていくでしょう。また、集落機能が麻痺する町内が出現し、地域全体の活力が低下してくる恐れがあります。

したがって、将来にわたって、地域の方々が住み慣れた地域で安心して日常生活を営むことができるための対策を急いで講じていく必要があります。

今まで以上に日常生活を支える地域生活交通などの生活基盤をしっかりと確保したうえで、保健・医療・介護を充実し、地域住民の互いの支え合いにより、地域の一人ひとりが、幸せに安心して暮らせる地域社会を、伊野地区住民の総力を結集してつくりあげていくことが求められています。

1 健やかな暮らしを支えるプロジェクト

(1) 生涯にわたり生き生きと健康に暮らしていくために（健康づくりの推進）

【現状と課題】

健康寿命は伸びているものの、脳血管疾患や高血圧症の罹患の原因とされる食塩摂取過多などの食生活や、運動習慣を持つ人が少ないなどの生活習慣病上の健康問題があります。

健康で、明るく、生きがいを持って生活を送り、地域の担い手として活躍してもらうためには、伊野地区の皆さん一人ひとりが子どもの頃から適切な生活習慣を確立し、生活習慣病の予防、疾病の早期発見など、生涯を通じた健康づくりへの取組みと、健康志向への意識改革が必要です。

【取組の方向、アクションプラン】

- ① 全町内でミニサロンを開設し、高齢者同士の交流や、悩み相談を実施します。
- ② 健康づくり（減塩食や体操・運動の促進などの生活習慣改善）の普及啓発や、各町内を巡回する体操教室を実施します。
- ③ 健康づくりの支援として、地域内で活動できる保健師・看護師や健康づくり推進員を中心に、県立大学出雲キャンパスの協力を得て、体制を整備します。
- ④ 病気の早期発見・早期治療につながるよう、健康診断やがん検診、特定健康診断などの受診率向上に取り組みます。（チラシの配布など）



生きがいと健康づくり講習会

また、簡単に自己計測ができる機器（血圧計など）を、拠点施設や集会所に配備します。

(2) 病気・要介護になっても身近な地域で安心して、切れ目のないサービスが受けられるために（医療の確保、介護の充実）

【現状と課題】

高齢者が生涯を通じて、住み慣れた地域で安心していきいきと暮らせるためには、介護予防、認知症対策、訪問診療、訪問看護、訪問介護など、医療・介護が切れ目なく提供できる体制が必要です。

また、伊野地区には身近に医療機関がないため通院手段を確保していくことや、救急車の到着までに時間がかかるための対応策としてファーストレスポonder制度の体制維持が必要です。

独居高齢者や高齢者のみの世帯が年々増加しており、自宅で介護できない世帯が増えています。また、認知症の介護に当たる家族の負担も増えています。こうした状況に対応していく仕組みが必要となっています。

独居高齢者の緊急時の通報手段がないことや、施設サービスの待機者が増加傾向にあり、必要な時に適切なサービスが受けられるかどうか不安の声もあります。

【取組の方向、アクションプラン】

① 住まい、生活支援、介護予防、医療、介護を行政や社会福祉法人等、地域が連携してサービス提供できるシステムの整備が求められています。特に、住まい（自宅、空き家を活用した高齢者集合住宅）、介護予防（ミニサロン）、生活支援（買い物、通院、食事、美容）について、「伊野地区モデル」を検討し、実施します。



町内のミニサロン

- ② 認知症予防や認知症患者に対する家族・地域のかかわり方などについて講習会の開催や相談体制を整備していきます。
- ③ ファーストレスポonder体制の維持のために、後継者育成の研修会開催や各町内での救命救急法の研修などを行います。
- ④ 生活バス以外の通院手段の確保について、ニーズを踏まえ、検討します。（デマンドバス、タクシー借り上げ）
- ⑤ 独居高齢者の安否確認として、訪問体制、通信体制の整備など、有効な手段を検討します。

（3）住民相互の支え合いで安心して暮らせる地域社会をつくるために（地域福祉の充実）

【現状と課題】

日常生活で住民同士のつながりが強い伊野地区においても生活意識が多様化するなか、つながりが希薄となり、相互扶助の機能が低下していく恐れがあります。

住み慣れた地域で安心して暮らしていくためには、地域住民や社会福祉協議会、ボランティア、民間などによる地域での支え合いの体制を早急に立ち上げ、必要な時に必要なサービスを受けて生活できるようにしていくことが求められています。

こうした地域社会をつくるためには、男性の意識も含め、住民参加の機運をつくり上げていくことが欠かせません。

障がい者については、公共施設のバリアフリー化の推進や、地域活動参加を促進するための仕組みづくりが必要です。

【取組の方向、アクションプラン】

- ① 困りごとや願いごとを、地域のみんで支える仕組みとして、有償ボランティア組織「伊野おたがいさまセンター」を検討していきます。（有償ボランティア組織「たすけあい平田」への参加も検討）
- ② ソーシャルビジネスの手法を用いて、高齢者の見守り活動（安否確認）と配食サービスや買い物サービスを兼ねた事業を、ニーズを踏まえ、検討します。
- ③ 障がい者の地域活動参加促進のため、公共施設のバリアフリー化を推進します。

(4) 人生100年時代！高齢者が生きがいをもって地域の支え手として活躍できるために
(高齢者の活躍推進)

【現状と課題】

伊野地区の年齢別人口は、3人に1人が高齢者（65歳以上）であり、今後もその割合が上昇し、20年後には10人に4人が高齢者になると見込まれています。

一方、後期高齢者（75歳以上）のうち、3分の1程度は、現役として地域活動や仕事に携わっています。

人生100年時代と言われる中で、高齢者が培ってきた豊かな知識や経験を活かしながら、地域活動の中で生きがいを感じ、楽しく元気に活躍してもらうための仕組みをつくっていく必要があります。現在、「伊野いち」や「ちよんぼし伊野いち」では、多くの高齢農業者が農水産物や加工品を販売するなど、交流人口・関係人口拡大の取組に精力的に参加しています。



ちよんぼし伊野いち(軽トラ市)

【取組の方向、アクションプラン】

- ① 「生涯現役」の機運を醸成し、高齢者が持つ豊かな知識や経験を活かす取組みや、地域の子供たちとの交流を通じた「技術伝承」を行います。
- ② 高齢者が地域の担い手として活躍するための実践の場や学びの場を提供します。
(農産物・加工品販売の勉強会、伊野いちなど)
- ③ 安らぎや娯楽（囲碁、将棋、麻雀など）の場を提供します。
- ④ 男性高齢者の健康や地域活動参加の意識を変えていくため、研修を実施します。

2 暮らしの基盤を支えるプロジェクト

(1) 安全・安心・快適な日常生活を支える基盤（道路）の整備・維持のために
(道路の整備と維持管理)

【現状と課題】

伊野地区には、一畑電車伊野灘駅がありますが、住民の多くは自動車が主要な移動手段であるため、道路は、通勤や買い物など日常生活を支える重要なインフラです。

特に、市道伊野本線は、避難や救助活動などをはじめとする生活インフラの重要な路線です。主要地方道斐川一畑大社線は、他地区と連結する道路であるとともに、原子力災害時の緊急避難道路であることから、今後とも重点的・計画的に整備を進める必要があります。



伊野本線 金森・東地合間のせまい道路

そのほか、日常生活の安全性を確保するため、歩道の設置や舗装されて30年以上経過する市道など、経年劣化による老朽化の進行に対するための適正な管理と、改良、修繕が喫緊の課題となっています。

【取組の方向、アクションプラン】

- ①防災対策、住民の安全確保という観点から、「斐川一畑大社線（地合工区）」や「市道伊野本線」の改良、「松江・平田幹線（農道）」の歩道の設置や、国道431号線から伊野本線への進入道路（美野本線）の早期着工・完成を出雲市等に要望します。
- ②舗装されて30年以上経過する市道など、経年劣化による老朽化の進行に対応するため、適正な管理と改良・修繕を出雲市に要望します。

（2）高齢等により車の運転を控える人や運転免許を持たない人の移動手段を確保するために（地域生活交通の確保、情報インフラの整備・活用）

【現状と課題】

鉄道や路線バスなどの公共交通を確保することは、高齢等により車の運転を控える人（運転免許返納者も含む）や移動手段を有していない人が、安心して住み続けることのできる環境を維持していくうえで、きわめて重要なことです。

現在、出雲市生活バスが運行していますが、ダイヤやルートの変更など地域の実情に応じた見直しを図り、利便性を高める必要があります。

また、子どもからお年寄りまで活用できるインターネット環境の整備が必要であり、特に、より高速な通信が可能となる光ファイバーの通信網の整備が求められています。



交通弱者の足・平田生活バス

【取組の方向、アクションプラン】

- ① 出雲市が運営する生活バスの便数増やルート変更について、出雲市へ要望します。
- ② 今後、増加が予想される運転免許返納者、通院や買い物などの移動手段がない人への対策として、デマンドバスやタクシー借り上げなど、ニーズを踏まえて高齢者の移動手段の確保について検討します。
- ③ インターネット環境の整備についても、関係機関に要望します。

（3）移動手段を持たない方が身近な場所での買い物ができるために（買い物難民支援）

【現状と課題】

伊野地区内には、日用品などの買い物の場として、野郷町に1軒の商店があります。特に、移動手段を持たない高齢者に多く利用され交流の場になっています。

将来にわたって、地区内の商店が存続されるか動向を注視し、地域のニーズに対応した買い物支援が求められています。

【取組の方向、アクションプラン】

- ① 将来、地区内商店等の存続動向や地域のニーズを把握し、買い物難民対策として、移動販売や地域ショップの開設、宅配サービスを検討します。

(4) 安心して住みやすい環境をつくっていくために（快適な居住環境づくり）

【現状と課題】

近年、住宅や農地の近くまで山に戻りつつあるなかで、イノシシ、サル、シカなどが増え、農作物被害も大きくなっています。また、人に危害を与える恐れがあるなど、安心して住めない状況にあります。

一方、伊野地区の強みである緑豊かな優れた景観を保全していくことや、増えつつある空き家の有効活用、自宅やその周辺環境の整備（草刈りなど）を行う仕組みづくりも必要です。

【取組の方向、アクションプラン】

- ① 地区内外から募集した「草刈り応援隊」を結成します。（有償を検討）
- ② 住宅内外の管理や環境整備（墓管理など）、空き家を活用した高齢者集合住居（公共交通機関の近くに）など、ニーズを踏まえた住宅管理システムを検討します。
- ③ 鳥獣対策の担い手不足に対応するため、狩猟免許所有者を増やす取組を行います。
- ④ 地域の優れた景観（地合の町並み、秋葉山、十膳山、田園風景など）を生かしたまちづくりを推進します。



牛の首の先に沈む夕陽(西地合)



生物多様性の証明 コウノトリの飛来

安全・
安心

住民の生命・安全を守る！ 安全は全てに優先する！

1. 伊野暮らしの土台は安全・安心の環境です。
2. 安全な環境であることが生命を守ることにつながります。



FR(ファーストレスポnder)講習会



原子力災害時の避難先大社町荒木地区で
3.11メモリアルウォーク参加(毎年)



安全の中で**生命**が守られる！

■伊野地区の現状

1. 人口減少・高齢化により、防災力や危機対応能力が低下することが予想されます。
2. 20年後、高齢者のうち75歳以上の後期高齢者が前期高齢者（65～74歳）の2倍近くになると予想されます。災害時における高齢者の支援等、高齢者の安全確保が重要な課題です。
3. 島根原発から約10kmの伊野地区では避難道路の整備など原子力災害対応は住民の高い関心事となっています。

■活動方針・・・具体的活動内容

1 高齢者の生命・安全確保《人命》

Step1：将来の状況を想定し、まず、高齢者の皆さまを守る活動を展開

Step2：伊野地区全住民を守る活動への横展開

【災害時要支援者対応】

- 近年、自然災害が多発する中で、一番避難に課題があるのは高齢者の皆さまです。災害時は行政支援にも限界があるので、「自分たちの身は自分たちで守る」をスローガンに、お住まいの各町内会で助け合いの輪をつくりあげ、家族的な支援ができる体制をつくりまします。

【生活バス利便性向上】

- 運転免許証返納に伴い、移動手段を失い、買い物や通院に困難をきたすのは高齢者の皆さんです。現在、生活バスが運行されていますが、タイヤや運行ルートなどの改善を求める声が挙がっています。早急に改善案をつくり、市との協議を開始します。

2 土砂災害対応（自主防災組織）《人命》近年の集中豪雨

Step1：伊野地区での災害は土砂災害が高い確率で想定されます。



急傾斜地の集落



伊野川の防災・減災工事

【土砂災害対応マニュアル作成】

- 平成28年度にマニュアルのベースを作成したので、今後、このベースを基に実態に合った災害時の避難方法・誘導をマニュアル化します。
*この災害対応については関係団体との共通理解を図るとともに、定期的な訓練も実施したい。

【伊野地区危険マップ作成】・・・土砂災害・ため池

- まず、日常的に危険なところを調査し、地区の皆さま方に周知を図り意識面での改革に努めます。気を付ける場所を把握していただき、「もしかしたら…」と危険予知能力が働くようにしたいと思います。

3 交通安全対応（日常危険箇所）《人命》

危険マップ作成にあたって、特に多くの声が挙がったのが、交通にかかわるものでした。高齢者の皆さまや子どもたちを危険から守るために地区の皆さま全員に地図マークで危険ポイントを提示します。この危険マップは1年毎に更新します。

【伊野地区危険マップ作成】・・・交通安全

- 電動三輪車(シニアカー)の課題、危険箇所を調査
- 自動車、歩行者、電動三輪、自転車、全ての視点からの危険の吸い上げ！

4 FR 隊の隊員確保、次世代への継承 《人命》を守る最前線！

- 災害時同様、伊野地区の場合、救急車を呼んでも15分以上かかる地域もあり、「自分たちの身は自分たちで守る！」の意識で、FR隊のチームワークを発揮して目の前の命を救いたいです。これから若年人口が減るので、急いで次世代育成に努めます。また、各町内単位に救命講習会を開き、家族や近隣の救命力を高めます。

5 原子力災害対応…荒木地区との連携

原子力災害も、土砂災害と同様に、各町内会の助け合いの輪で対応したいです。



- 避難先となっている大社町荒木地区との交流を継続発展させます。
- 原子力発電についての理解を深める学習会を市と連携して開催します。
- 原子力災害を想定した避難訓練を市と連携して開催します。
- 避難道路となる伊野本線、美野本線、斐川一畑大社線地合工区の改良工事を急ぐよう市・県に要請します。

■ 活動目標

* 各課題を中長期別に整理・区分けし、活動を展開する。

* 特に、《人命》に関する内容は年度内に最優先！

* 達成目標⇒19年度内進捗率：75%以上を目指す！

- 1 高齢者の生命・安全確保《人命》
- 2 土砂災害対応（自主防災組織）《人命》 近年の集中豪雨
- 3 交通安全対応（日常危険箇所）《人命》

○ 1～3を優先的に取組み、進捗率75%以上を目指す！

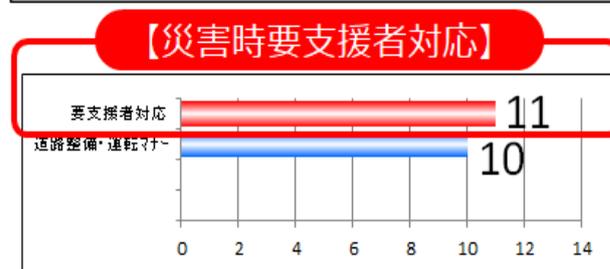
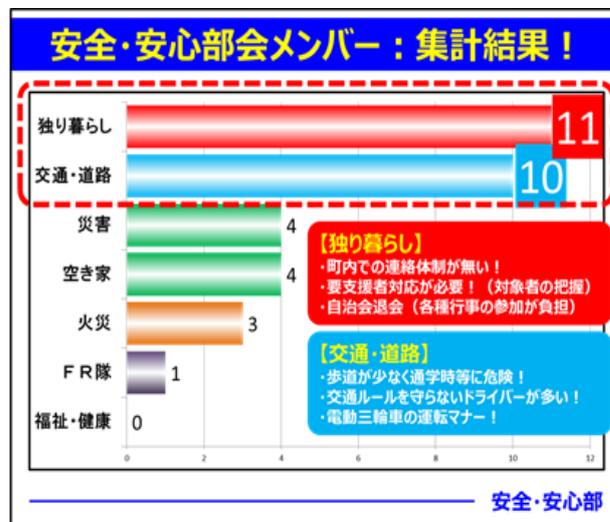
○ 残課題は、次年度で整理し、再度取組み、活動の見える化を進めます。

■資料

①高齢者の生命・安全確保《人命》

【協力体制】

町内会長・民生委員・福祉委員



1 高齢者クラブの皆さま対象のアンケート集計結果

運転免許証返納による不便と不安をお持ちの方が多く見受けられます。

生活バスについては、前述のように、行政との折衝状況を随時報告します。

2 安全・安心部会メンバーによる町内調査集計結果

図示の様に、一人暮らしの不安や交通手段・道路についての心配がトップとなっています。

災害時の要支援者対応が、まず急がれる課題で、現在、各町内での支援体制（名簿）を作成中。

②土砂災害対応（自主防災組織確立と運用）《人命》

【土砂災害対応マニュアル】

1. 上記資料（土砂災害対応マニュアル）は、平成 28 年度に作成したもので、今後、現状に合うようにリニューアルします。
2. 災害対応には多くの関係機関の協働が必須なので、縦軸・横軸の連携を交え、情報の伝達訓練・要支援者の安否確認等、様々な想定での訓練が必要となっています。
3. マニュアル作成後、実際の災害を想定した訓練を定期的に行って課題を把握し、次年度の改善につなげます。

③交通安全（危険マップ作成）《人命》

【伊野地区危険マップ】



- ・ 左表は、伊野地区土砂災害マップ（現在作成中）今後、土木委員、地すべり委員の皆さんとも連携して、危険マップを作成する。
- ・ 土砂災害危険マップ同様、交通安全に関する危険箇所をリストアップする。今後、土砂災害・交通安全等、危険箇所を定期的に見直し更新していく。

『まち歩き』で、まだ、気付かない危険箇所を見つける！

1. 安全・安心部メンバーで交通安全上の危険箇所をリストアップし、そのポイントを地図に落とし込み、伊野地区全体の危険箇所の把握と意識改革で事故を未然に防ぎます。
2. 上記、①・②・③の取り組みを展開しますが、新たな課題も浮かび上がると思います。まずは、この3テーマ(課題)に向けて、安全・安心部会メンバーが率先して取り組み、伊野地区全体への波及効果を生みたいです。

***以上・・・①・②・③で**

- ①高齢者の生命・安全確保
- ②土砂災害対応(自主防災組織確立)
- ③交通安全(危険マップ作成)

安全

継続!

3. 現在、部会メンバーは各町内1名配置していますが、さらに部会関係者を増やし、実行部隊を増員し、伊野地区全ての人の力(輪)で安全な伊野をつくり上げたいです。

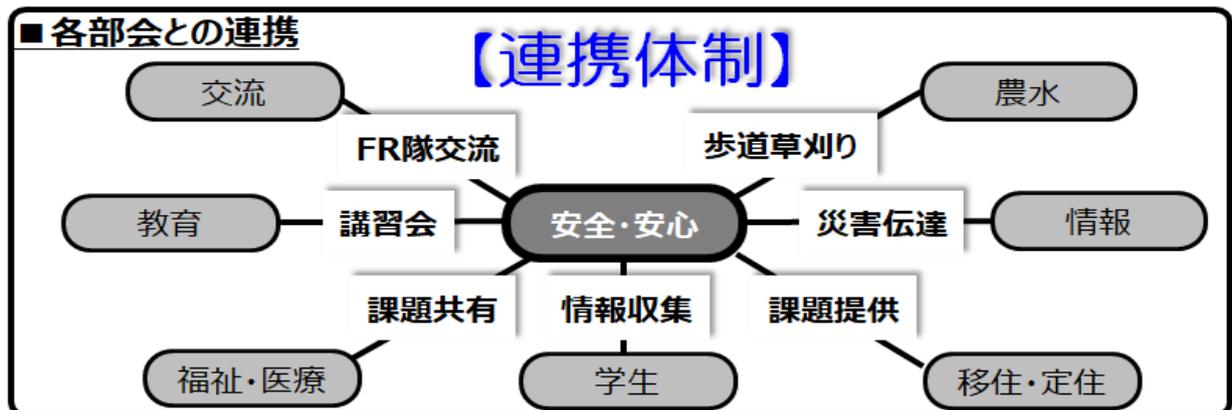
■活動スケジュール

■活動スケジュール

3月末進捗率目標:75%以上

活動内容	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
・災害時要支援者対応	町内会長の皆さんに依頼中					25%	Step 1
・生活バス利便性向上	多久和自治会長対応中					25%	関係地区との連携
・土砂災害対応マニュアル作成			リニューアル			25%	マニュアルのリニューアル
・伊野地区危険マップ作成		情報収集		マップ作成		25%	土砂・交通等

合計: 100%



1. 活動スケジュールは上記4テーマとし、19年度3月を一旦仕上げと位置づけ100%完了を目指しますが、突発的な課題も想定されるため、75%完成を目指します!
2. 今後、各課題の役割分担を決め、部会メンバー全員の活動で進捗の前倒しを目指します。
3. 他部会との連携が、今後、必要不可欠となるため、安全・安心部を中心に他部会との役割分担を明確にし、活動の共有化(リンク)でスピードを上げて取り組み、活動の成果を生み出したいと考えています。

楽しむ農業・漁業

農水

1. 現状把握

(1) 農業関係について

- ・地区全体で、専業で水田を耕作する認定農家は3軒。
- ・自力で耕作している農家は50軒ほどと推定される。
- ・後継者は少なく、自作意欲のある農家は年々少なくなっていく。
- ・上伊野農業再生プロジェクトや、農地保全の会等、農地を維持する組織があり、農地維持の活動がなされている。伊野平集落協定は、自作できなくなった水田は協定参加メンバーでカバーしあう仕組みが出来ている。
- ・耕作条件の悪い山間地では年々耕作放棄地が増え、管理が行き届かない農地が増えてきている。
- ・イノシシ、シカ、ヌートリア、アナグマ等の有害鳥獣が増え、農作物に被害を与えている。最近ではサルの被害報告もある。
- ・手入れされなくなった耕作放棄地の草や藪が、さらに農地荒廃や害虫、害獣のすみかになり、悪影響を及ぼしている。
- ・「伊野いち」「伊野ちょんぼし市」等、直売イベントが定着してきている。



年2回開催の伊野いち

(2)水産業関係について

<日本海側の漁業>

- ・後継者がほぼ皆無な状況で、現在の漁師が最後の世代になるか、瀬戸際に立たされている。
- ・かつて盛況を呈していた朝市も、主催者側(漁業会・えびす会)のメンバーが減り、運営ができなくなった。
- ・定置網漁業は人手不足対策等に努め、経営を維持している。
- ・新鮮な魚介類を行商している漁師さんがおり、住民から喜ばれている。



新鮮な魚介類の販売(文化祭)

<宍道湖側の漁業>

- ・ヤマトシジミの漁獲量は、減少傾向にあり、県や漁協の様々な取り組みや研究が行われている。何年前には漁獲がほとんどない大変な時期があった。
- ・資源管理のため、出漁日と漁獲量の制限があり、昔より収入が減っている。シジミ自体が将来的に安定してとり続けられるかどうか、不安要因が多くある。
- ・藻の発生や水質悪化で、シジミ以外の魚も減ってきている。水深が浅くなったうえに温暖化の影響で水温が上昇し、スズキ(セイゴ)が増え、アマサギの漁獲量はほぼ無くなっている。将来的な漁獲量が心配されている。

2. 目 標 <めざすべき姿・こうあってほしい将来像>

- (1)耕作放棄地が無く、整備された田畑が維持されている。
- (2)特産品の知名度があり、労働に見合った安定した収入が得られている。
- (3)草刈などの環境整備事業が行われ、美しい景観と生活環境が守られている。

3. 取り組みや対策

生業として農業・漁業をする者と、農業・漁業収入に頼らない兼業の農・漁業者の2極化が進んでいくものと思われる。

兼業農家・漁師がやりがいをもって農業や漁業を続けていけるかどうかをキーポイントとする。

「楽しむ農業・漁業」をスローガンに

生活するための目的ではない、楽しみながら農業・漁業をすることを提案

○つくった野菜・獲った魚介類などを販売できる場所、仕組みをつくる

- ・野菜作りは米作りほど初期投資がかからない。
(手軽に始められる)
- ・生産者が休耕田を利用すれば、有効活用になる。
- ・野菜を売ったお金で、種や苗、肥料や農薬代の足しになる。
- ・オリジナルの商品 (made in 伊野) をつくり販売する。
- ・伊野地区の産品を内外にアピールできる。
- ・農業にかかわる人を増やすことにより農業を活性化させる。
- ・販売する場所があれば、地域コミュニティが活性化する。
- ・人が集まれば地域共助の輪も広がる。(買い物難民を助ける事業)
- ・農産物だけでなく水産物も販売できるようにし、豊かな食材を提供する。



地合漁港で釣りを楽しむ子どもたち

○加工し付加価値を付けて販売できる施設をつくる

- ・直売することで、直接自分たちで価格がつけられる魅力がある。
- ・加工施設があれば、付加価値を上乗せして販売できる。
- ・遠い直売所や行商で販売する労力を軽減できるのではないかな。

4. アクションプラン

(1) 持続可能な産直市 & 加工施設の実現

産直・加工施設を運営するため、様々な問題解決や環境を整え、計画の検討と運営の仕方について十分に協議し、持続可能な仕組みを作りましょう。



伝統のしぼ入りちまき

(2) 話題となる特産品や独自商品の開発

生産者が自信とやりがいをもって、農産物や水産物の生産や製造ができる商品をつくろう。



いももち作り

(3) 草刈隊の実現

環境整備組織をつくり、美しい景観と生活環境を自分たちの手で守ろう。



草刈りが大変な棚田



ほたるの里 この米は絶品！

交流

みんな笑顔でつながる 次世代につなげる交流

交流 = つながり

<ビジョン・ストーリー>

人と人が交流を深めることで、つながりができ、出会いがあり、笑顔が生まれ、心が豊かになり、安心感も生まれ、伊野地区に住むことに満足と幸福感が生まれる。

<交流が果たす役割>

伊野の未来づくりを進める上で、様々な課題に対し各分野で活動する個人や団体をつなげる(橋渡し)ことで、課題解決と未来へ続く道筋をつくる役割を果たす。



国際ワークキャンプで
海外青年たちと交流する伊野小児童

<めざす交流の姿>

一人ひとりのつながりを大切に、みんなで考えて、みんなで行動して、みんなで楽しむ、伊野地区全住民参加型のまちづくり。

1) 現状と問題点

- ・地域行事の運営や参加者が特定の人に偏りがちである。
- ・地域の活力(元気)や近所同士・住民同士のつながりが低下している。
- ・伊野小児童や未就学児の保護者同士(PTA)の交流が少ない。
- ・伊野地区の情報がうまく外部に情報発信できていない。
- ・伊野地区内の各団体・組織同士のつながりや連携が不十分である。
- ・伊野地区にやって来たお嫁さんやお婿さんがなかなか地域に馴染めない(交流がない)。
- ・伊野地区外に出た人が、ふるさと伊野とのつながりを失っている。
- ・世代が違くと、どこの誰だかわからない。

2) 課題解決へのテーマ

① 地区内部の交流の活性化

各団体、組織、個人との交流アクション 次世代に引き継ぐ交流サイクル

子どもと保護者らが主体となる交流企画など、子どもから大人へとつながる交流土台をしっかりとつくり、次世代に引き継ぐことができる交流サイクルの構築

② 地区外部との交流の活性化

地区外の著名人等を迎えての交流アクション

各分野で活躍をする著名人や伊野出身者との交流企画で、地区住民(子どもたち)に夢や刺激を与え、新しいアイデアや将来の夢が生まれるきっかけづくり

③ 地区内交流の見える化

伊野地区内の交流関係(実態)の見える化

伊野地区交流マップを作成して、個人や団体(組織)の交流(つながり)実態を見える化することで、他とのつながりを広げ交流に対する意識の向上を図る。



山道を走るトレイルラン大会

3) 今後の展開－アクションプラン－

まずは地区内の交流を重点的にアクションを展開。伊野の住民同士のつながりを強化！！

<こんなことがしたい！！>

- ・交流なんでも相談窓口の開設
- ・イタリアと野菜を通じた交流(伊タリ野)
- ・空き家を使った地区住民の隠れ家
- ・ツリーハウスを作り、森に憩いの場を
- ・恋人ロード企画(伊努神社～芦高神社)
- ・全(未)就学児と保護者による交流企画
- ・全地区住民へ伊野オリジナル名刺作成
- ・伊野の森や海での音楽会(コンサート)
- ・空き家を使った民泊体験
- ・全地区民参加による伊野 PR 動画作成



伊野ふるさとかるたを使った名刺



森をどういやす？

ヒト・モノ・コトがつながるコミュニティ ～伊野情報発信局～

情報発信

現在、伊野地区の情報の多くは紙や放送、あるいは町内会などの会議を通じて提供されており、届く範囲や精度に限界があります。

必要な情報を、必要な人に、必要なタイミングで提供するためには、手軽さ・迅速さが必要であり、その手段としてインターネットを活用する必要性が高まっています。

情報を必要としている人たちへ、あるいは情報を発信したい人たちへ、目的ではなく手段として、様々な取り組みを支援するためのツールとしてお役に立ちたいと思います。

まずは情報発信のきっかけとして「SNS」から始めることで、一人ひとりが楽しみながら情報を公開し共有できる仕組みを作りたいと思います。

伊野情報発信局

Twitter



Instagram



Facebook



伊野SNSアカウント

#伊野〇〇

- ◆ 子育て・教育やイベントなどの情報発信
- ◆ 災害や交通などの情報発信
- ◆ #伊野の利用、拡散

- ◆ 個人や団体が情報発信
- ◆ SNS開設のお手伝いや勉強会など開催
- ◆ 求人・求助マッチングサイト

- ◆ 情報インフラの整備
- ◆ 情報元の確保
- ◆ 投稿者・住民理解
- ◆ 情報発信運営

市場 祭り イベント キャンプ場 企業・住宅誘致
学校 草刈り お困り 安全 空き家 便利屋 子育て

1 人と情報をつなぎ楽しさを育む

(1) 教育やイベントなどの情報を容易に入手できる伊野

○ 伊野公式 SNS

伊野公式 SNS を活用して子育てや教育、イベントなど、伊野地区に関するさまざまな情報を発信し、住民が欲しい情報を欲しいときに容易に入手できるようにします。

○ #伊野 etc.の利用、拡散

SNS では情報を検索しやすくする仕組みがあります。

「#伊野」など共通したキーワードをみなさんが利用することで、住民が伊野情報をさらに友人や知り合いに拡散したり、多くの人に案内したい情報などを気軽に発信、検索、入手しやすくしたりします。



文化祭 もちまき

(2) SNS を活用し販売促進などにつなげることができる伊野

○ SNS 勉強会開催や SNS 活用方法説明書の配布

Instagram、Twitter の始め方などの勉強会を開催したり、SNS 活用事例などを紹介する説明書を配布したりして、住民が SNS の理解を深め、産品や商品の情報を発信できるようお手伝いします。



伊野Instagram写真コンテスト



平田まちあそびイベントで開催
伊野アンテナショップ

(3) 災害や交通などの情報を迅速に入手できる伊野

- コミセンに届いた災害や交通等の情報を SNS 発信

コミセンに届いた災害情報や通行止めなどの交通情報を SNS で発信し、住民の安全・安心につなげます。



2018年の節分寒波

(4) 生活で困っていることを SNS を活用して解決できる伊野

- 求人・求助マッチングサイト

「だれかの手助けが欲しい」「多くの人手が必要だ」といったように、困っている人と「こんなことならお手伝いできますよ」「このことは得意ですよ」「こんなやり方がありますよ」といったように労力や知恵を提供できる人とをマッチングするサイトを立ち上げ、住民同士が協力し合える伊野をめざします。

2 情報インフラ整備と共有ネットワークの構築

(1) 情報インフラの整備

- SNS インフラ整備

Instagram、Twitter、Facebook、YouTube など多くのチャンネルで情報発信できるような体制を整備します。



○ SNS 投稿ガイドライン整備

情報を発信する際のルールやガイドラインを整備します。

○ ホームページ整備

情報発信の基盤となる伊野ホームページ（自治協会とコミセン）を整備します。



伊野地区自治協会ホームページ

(2) 情報元の確保

○ 情報収集元の調査

どんな人がどんな情報を欲しいと思っているのか、どんな人がどんな情報をどのように発信したいと考えているのか調査します。

(3) 投稿者・住民理解

○ 住民告知

SNS での情報発信活動の状況を住民の方に紹介していきます。

○ 投稿メンバー確保

タイムリーに継続的に情報発信できるよう、情報発信したい方とのコンタクト手段を確立します。多くの人が気軽に情報発信できる環境、風土づくりをしていきます。

(4) 情報発信運営

○ 継続可能な運営ルールの整備

継続的に情報発信できるような運営ルールの整備、役割分担、投稿勉強会を実施します。

— 若者目線からつなげよう —

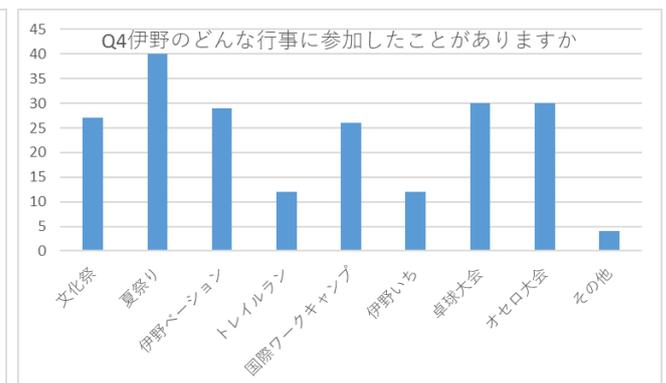
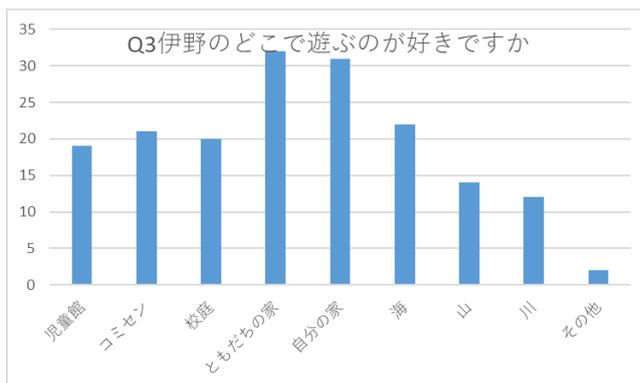
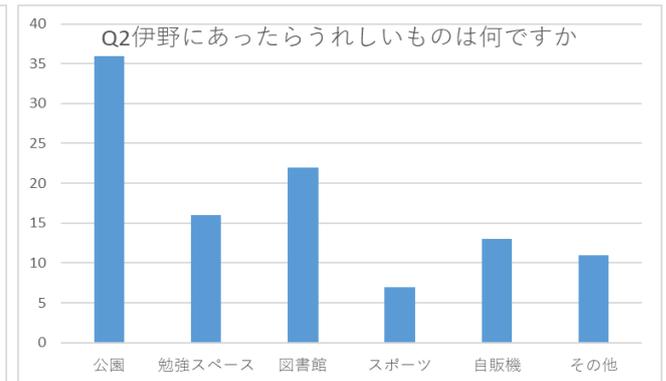
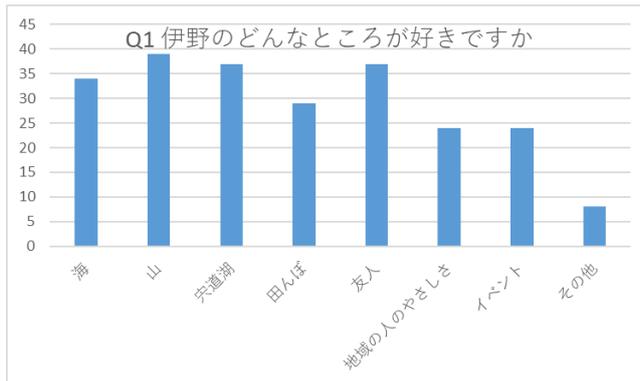
1 私たちが考える伊野の現状

- ・若者の就職先が県外や遠い所の割合が高くなっている。
- ・公園など遊び場が極端に少ない。
- ・同年代や年が近い人が行事にあまり参加しないため、行っても話にくい。
- ・行事も自分からしたいというよりも、やらされている感じがする。



外国人も舞台上に立った夏祭り2019

2 伊野の小学生の気持ち（各問 複数回答可 n=48）



- ・公園があると嬉しい人が多い
- ・大きな行事があると参加する人が多い傾向
- ・普段は自分の家や友達の家で遊ぶ人が多い

3 私たちが考える 10 年後の伊野ビジョン

伊野の自然を生かしたオリエンテーリングや釣りといった野外活動の実施、大学生や高校生などと一緒に小学生の合同勉強会、伊野の野菜の収穫体験などといった意見が出たが、その中で我々が一番やりたいと思ったのは・・・

～中学生から 20 歳まで任意で入れる「いの青年団」の結成～

(1) 提案理由

小学生のアンケートを実施した結果、地域の活動に参加している子どもが多いことが分かった。しかし中学生や高校生になっていくと部活などで忙しくなり、なかなか地区の行事に参加できなくなる傾向がある。また、1 人では行事に参加しづらいという声もあった。そこで、青年団をつくることで、自分の出たい行事もしくは都合のつくときに出られる行事を早く把握でき、かつ、多くの若い人が参加できるのではないかと考えた。



伊野小親子運動会

(2) どのようにつくっていくか

まず大学生などが筆頭となって、地区の行事や催し物の情報をコミセンなどから聞き、青年団に入った人は青年団の LINE などのグループに入ってもらい、情報を共有する。

最初は地域活動のお手伝いやイベントをサポートしていく。徐々に文化祭や夏祭で出し物を企画していき、最終的には自分たちで企画した行事を実行できるようにする。

4 まとめ

- ・平成 31 年 3 月に学生グループが発足して話し合いを繰り返したり、町づくりフォーラムに参加したりして我々の感じた伊野の現状や課題、改善策をまとめた。
- ・今の伊野の現状として小学生を除く若者が地区の行事に積極的に参加していないことが分かった。その原因として情報の共有が上手くいっていない、部活などで忙しくなった、1 人だと参加しづらいということが考えられた。
- ・小学生は公園が欲しいという意見が多く、公園があればもっと外で遊ぶ人が増えるのではないのかと思うが、我々の力だけではどうすることもできない。
- ・青年団を結成することで積極的な地域参加、幅広い世代との交流、いろいろな情報や知恵の収集ができるのではないかと考えている。

編集後記

この伊野ビジョンは、まちづくりへの関心が次第に高まる中で、「10年後の伊野将来ビジョン」を住民参加によってつくり上げようと、伊野で暮らしている老若男女 70 人が中心となり、多くの住民の声と行政の支援を受けて出来上がったものです。本音で語り、1人1人の意見を大切に話し合いを何度も重ねました。

心血を注いで作りあげたビジョンですが、現時点で考えた課題や方針ですので、行動して行く過程でビジョンが変化して行くことも十分想定されます。そういう意味ではこのビジョンは「未完成」と言えるかもしれません。

まずは、このビジョンを参考にして、できるところから始めたいと思います。お互いに手を取り合い、支え合いながら前進しましょう。そして、安全で暮らしやすい伊野地区をともに完成させましょう。未来は、これからの私たちの取り組みにかかっています。皆様の動き出しに期待しています。

このビジョン作成にあたり、多数の方々にご支援をいただきました。

島根県中山間地研究センターの吉田様、中山様、貫田様には、夜遅くの会議にも快くご参加いただきヒント・ご助言をいただきました。

島根県しまね暮らし推進課、出雲市自治振興課、平田行政センターの皆様には適切なお指導をいただきました。

また、岩成優希様にはこのビジョン・パンフレット版の構成・デザインを引き受けていただき、分かりやすくまとめていただきました。

これら数多くのお力添えに心からお礼を申し上げます。

伊野コミュニティセンター
センター長 錦織 宏

戦略会議のメンバー

推進本部

多久和祥司、錦織宏、西村邦男、山崎功、倉橋浩志、池尻達男、多久和修、錦織信久、原田英明
岩成優志、山崎啓子、常松守男、山崎美吉、新宮邦男、原田亨、多久和秀政

部 会

○教育部会 【本部担当】多久和祥司、岩成優志 14人

【部長】山崎啓子

佐藤こず恵、原田誠二、原田可織、池尻多加、川瀬美佐緒、原田佳代、佐藤協(伊野小校長)
福田秀治(伊野小教頭)、多久和忍、西村かおり、兼折治加

○福祉・医療・暮らし部会 【本部担当】山崎功、錦織信久 14人

【部長】新宮邦男

岩成澄子、岩成久、山崎敏美、山崎義興、兼折太郎、原田智子、多久和和子、景山大圓
佐藤悦子、筒井春美、岡和夫

○安全・安心部会 【本部担当】錦織宏、原田英明 17人

【部長】山崎美吉

佐藤真一、常松幸二、岩成潤、多久和政徳、松本恭尚、池尻文雄、奥村春樹、多久和満一
原田晃樹、池尻孝治、原田和紀、竹内洋、池尻精二、岩成靖徳

○農水部会 【本部担当】西村邦男、多久和修 10人

【部長】常松守男

多久和耕二、原田良二、原田誉裕、佐藤亮一、多久和喜代美、多久和文子、錦織大輔

○交流部会 【本部担当】倉橋浩志 9人

【部長】多久和秀政

多久和幸三、竹内良子、原田敏照、多久和暁子、池尻薫、奥村香織、原田和男

○情報発信部 【本部担当】池尻達男 7人

【部長】原田亨

山崎智子、川瀬辰夫、岩成慎也、川瀬克久、原田洋一

○学生グループ 5人

【部長】川瀬貴大

松本善幸、原田奈央、原田菜月、佐藤日菜子